



マウロの地中海トマトとは？

トマトを心から愛するイタリア人マウロは、美味しいトマトを育種することに何より喜びを感じ、一年中トマトのことを考えています。

現在、彼は地中海に浮かぶシシリア島の自分の畑で、毎日まるで友人や恋人に接するように愛情をこめて、トマトを育てています。

そんな彼が生み出した品種が海を渡り、日本の生産者のみなさんに育てられておいしいトマトとして消費者の食卓に登場します。

トマトの新世界へ、ようこそ。

<クッキングコレクション>

トマトは切ってそのまま食べるだけではありません。調理してもっと美味しく食べてみませんか？



からみつく、うま味。

シシリアン ルージュ

<品種特性>

調理用のロケット型中玉トマト

果重は 15~25g 程度

果肉がしっかりしていて、やや酸味が強い

草勢はやや強く、段数の進みが早い

(一般的な大玉トマトが 5 段目開花のとき 7 段目開花)

初期生育が強いので、元肥はやや控えめに追肥重視で

4~5 段目からダブル果房発生

耐病性はトマトモザイクウイルス (Tm-1)、萎ちょう病 (F1)

半身萎ちょう病 (V)

台木はマイティ (むさし育種) がおすすめ

冬場の温度管理はやや高めの方が良い

葉かび病にやや弱い傾向があるので換気を徹底する

<ポイント>

果肉しっかり・果汁少なめなので調理しやすい

グルタミン酸約 3 倍なので旨み強い

(しっかり色づいてから収穫した方がより旨みが出る)

リコピン約 8 倍なので機能性も期待できる

TV・雑誌などのマスコミでも良く取り上げるなど話題性が豊富

2つ折レシピやスタンドパック、のぼりなど販売支援グッズが充実

ジュース加工からソフトクリームやゼリーなど加工品販売への展開が期待できる



2つ折レシピ



スタンドパック





生でも美味しい、クッキングドルチェ。

ロッシナポリタン

～ コクのある甘みをそのまま食べるか？調理して活かすか？ ～

<品種特性>

ロケット型の赤色ミニトマト

果重は 12～18g 程度

食味はコクのある甘み

果肉がしっかりしていて、裂果が少ない

草勢は中程度、葉は小葉で比較的栽培しやすい

耐病性は、トマトモザイクウイルス (Tm-2a 型)、半身萎ちょう病 (V)

萎ちょう病 (F1)

<ポイント>

調理用にも生食でも OK

へタが取れやすいのでへタなしでの出荷を

シングル果房がメインであるが、ブレが少ないので収量は安定する

段数の進みはシシリアンルージュよりも早いので、樹勢をやや強めに栽培して、

果重を大きめにして収量性を高めたほうが良い

樹勢が弱くなるとひょうたん果が出やすくなるので注意



憧れの調理用、クラシックトマト。

サンマルツアーノ リゼルバ

(2012 年販売開始予定)

<品種特性>

赤色の中玉調理用トマト (サンマルツアーノ型)

果重は 40～50g 前後

草勢は中程度。葉は小葉で栽培しやすい

通常のサンマルツアーノより、早生で段数の進みが早いので収量が期待できる

耐病性はトマトモザイクウイルス (Tm-2a 型)、半身萎ちょう病 (V)

萎ちょう病 (F1)

<ポイント>

調理してソースにすると鮮やかな赤色になる

グリーンショルダー対策として、窒素よりはカリウムやカルシウム、マグネシウムなどの施肥量をやや多めにした方が良い。

<ミニトマト・カラフルコレクション>

トマトは赤色だけではなく、味も食感もさまざまです。もっと華やかに食卓に彩りを添えてみませんか？



からみつく、あま味。

ピッコラ ルージュ

～ 通常のミニトマトよりも高い糖度で差別化を図る ～

<品種特性>

赤色のミニトマト

果重は 15～20g 程度

果肉がしっかりしていて、コクのある甘さが特長

4～5 段目からダブル果房が発生するが、シングル・ダブル果房が主体

元肥はやや控えめに追肥重視で

耐病性はトマトモザイクウイルス (Tm-2a)・萎ちょう病 (F1)

半身萎ちょう病 (V)

冬場の温度管理はやや高めの方が良い

葉かび病にやや弱い傾向があるので換気を徹底する

<ポイント>

果肉がしっかりしているため、収穫はもう一段階色づいた方が味はより良くなる

シングル果房がメインであるが、ブレが少ないので収量は安定しやすい



天然おやつ、βカロテン。

ピッコラ カナリア

～ ひと口で分かる甘さとオレンジカラー ～

<品種特性>

オレンジ色のミニトマト

果重は 10～15g 程度

強い甘みととろける食感が特長

初期生育が早く、1 段目の収穫が早い

4～5 段目からダブル果房発生。

樹勢によりかなり花数がつく場合は 20～25 果に摘果する

元肥はやや控えめに追肥重視で

耐病性はトマトモザイクウイルス (Tm-2a)

冬場の温度管理はやや高めの方が良い。また厳寒期は摘果を徹底する (10～15 果)

葉かび病にやや弱い傾向があるので換気を徹底する

<ポイント>

甘みは相当強いので消費者の評価が出やすい

花芽が多くつくため、時期によって味・収量のブレが出やすいため、房の先側の摘花を徹底し、樹勢を強く維持した方が良い

日照不足時はカリウム+マグネシウム、割れが出やすい時にはカリウム+カルシウムの施用が効果的

厳寒期はハウス内温度だけではなく、地温の確保が重要



葡萄みたいな、くちどけ。

トスカーナ バイオレット

～ 日本で初めての紫色ミニトマト ～

<品種特性>

紫色のミニトマト

果重は 15～20g 程度

甘みと酸味のバランス、果肉の柔らかさが特長

樹勢はかなり強いが、生育はやや遅め

初期生育が強いので元肥はかなり控えめに、追肥もやや控えめに

2～3 段目からダブル・トリプル果房発生

耐病性はトマトモザイクウイルス (Tm-1)、萎ちょう病 (F1)

半身萎ちょう病 (V)、

台木はマイティ (むさし育種) がおすすめ

全体的にしぼり気味に栽培または 2 本仕立てで栽培した方が良い

<ポイント>

樹勢が相当強いので、夏秋栽培の場合は水分を抑えるか、2 本仕立て等で樹勢を抑えるような栽培した方が良い

冬春栽培の場合は収穫初期は割れやすいが、厳寒期は味が出て評価が出やすい。

単品の販売より他の色と混ぜて販売した方が売れやすい



爽やかで、お甘いのがお好き。

プリンセス ロゼ

(2012 年販売開始予定)

～ 赤色のミニとはひと味違う味わいとロゼカラー ～

<品種特性>

鮮やかな赤ピンク系のミニトマト

果重は 15～20g 程度

食味は良好

草勢は強く、生育が早い

耐病性はトマトモザイクウイルス (Tm-1 型)、半身萎ちょう病 (V)

萎ちょう病 (F1)

<ポイント>

樹勢や玉のつき方から収量性が期待できる

カラフルコレクションのラインナップとして差別化販売

樹勢が強すぎると味がぼけやすくなるのでやや肥料を控えめにした方が良い

寒暖差が激しい時期はカルシウムの葉面散布など割れ対策をした方が良い



房なり、ロングシェルフ。

ルージュ ボルドー

～ 房なりの収量性とみずみずしい味わい ～

<品種特性>

赤色のミニトマト

果重は 10～15g 程度

すっきりとした味わいが特長

樹勢はやや強い

元肥はやや控えめに追肥重視で

3～4 段目からダブル果房発生

耐病性はトマトモザイクウイルス (Tm-2a)、萎ちょう病 (F1)

半身萎ちょう病 (V)

<ポイント>

収穫はしっかり色づいてからの方が味の評価が出やすい

樹勢は強く、玉数も多いので収量性は高い

しばり気味または 2 本仕立てで栽培して房どりでの出荷も可能



ミニトマトについては

各品種の出荷用シールおよび

品種混合販売用「カラフルコレクション」の出荷用シールで

販売をお手伝いします。

<エロティカコレクション>

続々と登場する新しいカテゴリーのトマト



セレブが愛する、セクシーな甘さ。

アマルフィの誘惑

(2012 年販売開始予定)

<品種特性>

赤色の中玉トマト

果重は 30～40g 前後

草勢は中程度だが、段数の進みが早いので収量性が期待できる

耐病性はトマトモザイクウイルス (Tm-1 型)、半身萎ちょう病 (V)

萎ちょう病 (F1)

<ポイント>

食味と収量性に優れている

グリーンショルダー対策として、窒素よりはカリウムやカルシウム、マグネシウムなどの施肥量をやや多めにした方が良い。

<パーティコレクション>

大きさも様々に、もっと食卓をトマトで飾りましょう



ラグーンの燃える黄昏の味。

ベネチアン サンセット

(2012年販売開始予定)

<品種特性>

赤色ゼブラタイプの大玉トマト

果重は1玉 80~120g 程度

1段に 8~10 玉を収穫

耐病性はトマトモザイクウイルス (Tm-1 型)、半身萎ちょう病 (V)

萎ちょう病 (F1)

<ポイント>

見た目で差別化を図る

玉のつき方から収量性が期待できる

通常の大玉品種より糖度は高いが、肉質がやわらかいので、水切り栽培の方がより特性を発揮できる

やや若どりして酸味を活かしてサラダに活用



超ミニで、この甘さはとまらない。

プチポン ロックン

(2012年販売開始予定)

<品種特性>

子供でも一口で食べられる新しいプチポンサイズのトマト

果重は 4~5g 前後

1段に 30~40 玉を収穫

極早生・小葉

耐病性はトマトモザイクウイルス (Tm-1 型)、半身萎ちょう病 (V)

萎ちょう病 (F1)

<ポイント>

わき芽が強く出てくるので、短期収穫なら株間をやや広めにして多本仕立て、長期収穫なら 2~3 本仕立てで栽培した方がよい

パイオニアエコサイエンス株式会社